



食給校学  
協導入品  
農林水産  
大臣賞に輝いた。生産

# 農林水産大臣賞に輝く 「3方良し」のシステム構築

富士市学校給食地場産品導入協議会がこのほど、2012年度地産地消優良活動表彰(農林水産省主催)の最高賞である農林水産大臣賞に輝いた。生産者・流通業者・学校給食のそれぞれにメリツトのある「3方良し」の食材納入システム構築の取り組みが高く評価された。8日には、同協議会の坂野友広会長(富士中央青果株式会社代表取締役社長)をはじめとする7人が市役所を訪れ、鈴木尚成

者・流通業者・学校給食のそれぞれにメリツトのある「3方良し」の食材納入システム構築の取り組みが高く評価された。8日には、同協議会の坂野友広会長(富士中央青果株式会社代表取締役社長)をはじめとする7人が市役所を訪れ、鈴木尚成

学校給食への地場産品導入については価格・規格・量が課題とされるが、同協議会では地元市場における地場産品の取扱量を調査し、学校給食に供給可能な地場産品の量を把握した上で市場を介することにより、地場農産物を必要な規格で安定的に提供できる食材納入システムを構築した。同システムは生産者にとってPR、流通業者にとって安定した取引先の確保、学校給食にとつて地場産品を安心して注文できる環境づくりというメリツトがあるという。同市内の全小・中学校の給食における県産品割合の平均は06年度に28・6%だったが、11年度には41・9%に高まっている。

受賞を報告した坂野会長は「協議会全体で一つの目標を共有し、相互理解を深めてきたことが成果に結び付いた。地産地消の取り組みは各地で行われているが、地元市場が関与している事例は意外に少なく、市場のコーディネート機能が力になってきていることがうれしい。食育の観点から地域に貢献できるよきつ、受賞を機に一層努力していきたい」と述べた。

鈴木市長は「さまざま苦勞があったと思ふが、関係者がしっかりと連携したからこそ成果が得られた。より良い学校給食のために、引き続き尽力を」と伝えた。

受賞を報告した学校給食地場産品導入協議会の皆さん